

東北風景写真家協会会員向け会報「東風季報」第43号です。当会報は会の行事、活動計画、各種のお知らせ、撮影適所、撮影情報、撮影テクニックなどの記事を掲載しております。

東風季報

発行
東北風景写真家協会
〒980-0852 仙台市宮城野区榴岡3-8-15
東北カラーデューブ株式会社内
Tel 022-256-2141, Fax 022-256-2142
編集 阿部・丸山

第12回定期総会開催

開催日 平成30年1月28日(日) 13:00~
会場 仙台市戦災復興記念館 4階研修室

仙台市戦災復興記念館4階研修室にて第12回定期総会を開催し、50名の会員の方と30通の委任状を頂戴し、総会は無事成立致しました。総会前に開催いたしました、今浦友喜先生によるスライド&トークセミナー「風景写真を広げる足し算引き算」も52名の会員の参加を頂きました。

総会は竹内正会長ご挨拶の後、議長には「事務局一任」の発声により、秋葉副会長を指名し総会次第に沿って議事の説明と質問を受け、提示させて頂きました。結果各議事を全てご承認頂きました。



【総会風景】

五箇山・白川郷撮影旅行

2018年1月16~18日

参加人員は17名のゆったり旅だ。天気は良く、蔵王連峰山頂の白さが青空とのコントラストで映える。車内では竹内会長より、撮影に関する注意事項やポイント等説明がなされ、メモを取る方もおられた。途中の景色は2~3日前に全国的に降った雪で福島周辺から新潟・北陸道まで一面の銀世界が続いていた。これまでの撮影旅行では、ほとんどが全員同じホテルに泊まっていた。今回は民宿でそれぞれ2班・3班に分かれての宿泊。食事もそれぞれで楽しむ。初日は五箇山相倉集落宿泊だ。銀世界の合掌造り集落到着。荷物を持って割り当てられた民宿へ。囲炉裏の赤々とした火に手をかざし、温かさが顔一面に広がる。おもてなしの抹茶を頂き、鉄瓶から入れる熱い番茶もおいしい。2~3階は養蚕等の展示場になっている。ほとんど、撮影機材を持ち外に出て、周辺を撮影しながら高台を目指した。日が落ちてきたので、集落の夜景を撮るのだ。近道を教えてもらい高台へ。積雪量は踏み固められていない所は、膝あたりまでである。いいポイントを探して三脚をセット。集落は建物の窓から灯りが見えて、パンフレットで見たような光景に出会い興奮を覚えた。露出は何度も変えながら撮影。時間が経つのが早い、相当暗くなったので夕食に間に合うよう足元を照らしながら宿に向かった。翌日早朝撮影は雨の中だった。ここ数日気温の高い日が続いていた。次に「こきりこ踊り」を撮影。民宿に踊りの保存会の皆さんにお越し頂き演舞披露、間近で撮影できました。続いて菅沼集落撮影・豪華昼食。その後ガスに包まれた白川郷を展望台から撮影、そして泊りは白川郷で。夕景撮影・翌日の早朝撮影は歩いて展望台へ。更に天候改善により予定変更。全員がバスで展望台にて撮影を。次は帰りの時刻まで、街並みを心行くまで自由撮影。(阿部和之記)



一月二十八日、総会に先立ち今浦氏によるセミナーが開かれた。今浦氏は、隔月刊「風景写真」の編集に三年半携わり貴重な体験をなされた後、フリーとなられた若き写真家です。「写真は引き算はよく聞きますが、今回のテーマは「足し算引き算」とある。果たして如何なる展開になるか興味深い。セミナーの要点を追ってみたい。

足し算 風景写真では光の方向を意識して立ち位置を変えて、足し算しつつうるさくならないように引算で整理する。前ぼけをわざとに添えることもある。霧や風を加えることで動きや季節感を表す。デジタルカメラでの、NDフィルターは、ND8では減光量が足りないの、ND16や32が使い易い。一枚の写真に入れる要素は二つまで

画面に見せたいものを多く入れると複雑になる。写真に空を入れると流れが切れることがあるので注意。ズームレンズやマクロレンズでシンパルな寄りの風景も撮ろう。デジタルカメラは高感度になり、シャッタースピード優先も広範になった。いくつかの星の写真には、珍しい雷雲の瞬間もある。連写のコンボジット(比較明合成)によるもので興味深い。カマフラマンの足し算

寄つたりしゃがんだりして違った視点で風景を見つけてよう。可動式モニターを利用してマクロ的表現もできる。一方、見上げる構図、例えば、広がりのある木は四隅にも注意してどこで切るかを考えてバランスをとる。近寄ればアフォーメ効果も楽しめる。主役にコントラストの足算

画面のどこに主役を置かか考える。光のフィッシュを意識して、コントラストでめりはりをつける。黒い背景に落とすのも分かりやすい。マクロレンズは場面、背景距離により絞りをきめる。主役、脇役の足し算 風景の中の人物や人物は比較対照にもなる。人は最も強い被写体であり気をつけて対応する。相性の良い人の営みを自然風景に入れる。風景写真の一部に鳥やネズミ



【ハイライト&シャドウコントロール】



【今浦友喜先生】

☆☆ 第6回写真展「美しい日本」について ☆☆

現在48名のご参加を頂き、7月開催に向け準備を進めております。作品選考会が3月13~14日、日立システムズホールで開催されますが、選考会に不参加の方も作品選定に余念のないこと推察しております。今後の作業諸スケジュールについては随時ご連絡を致しますので、ご協力を宜しくお願い致します。なお、不参加の方でも参加ご希望があれば、3月14日までにお近くの協会幹事にお声掛け下さい。

お知らせ

★写真コンテスト 上位入選者

ペンタックスフアマリールコンテスト(全国) 入選「幽玄の流れ」 門間 弘直 入選「こころ一番」 渡辺 正博

★新規入会会員ご紹介

お知らせの方に入会のお声かけ願います。

★(連絡)お願い

写真コンテスト及び公募展に入賞または入選された方、また個人やグループで写真展を開催される方も、連絡下さい。規定に則って掲載いたします。

お願い

★平成30年度年会費の お支払いのお願い

協会の各種企画事業や「東風季報」の作成、発行、郵送料等は比喩の年会費にて運営しております。

年会費(3,000円)未納の方は、左記口座宛宛お振込み下さい。振込手数料はご負担をお願いいたします。

●七十七銀行旭ヶ丘支店 普通 52722599

●ゆうちょ銀行 181901 14388881

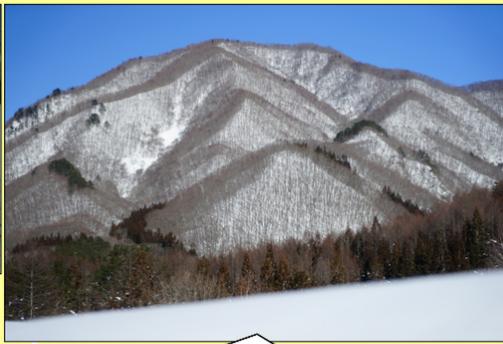
トウホクフウケイ シヤシヤンカキョウカイ

お詫び

前号までゆうちょ銀行の口座番号表記に誤りがありました。お詫びいたします。

『冬の南会津』撮影スポット

東北風景写真家協会 顧問 椎名亮介



①会津高原の冬(白樺や樹影を生かしたスケールある雪景色)

②湯の花温泉郷奥地の会津で最も美しい山並み

③木賊温泉郷のツララ群(小さな滝が凍ってできる美しいツララ)

④伊南川・雪の造美(午後の撮影が効果的)



● 気軽な撮影コースですが、撮影地は雪が深いので、雪用スパッツ着用をお勧めします。

● 《ルートと所要時間(参考)》

白河発8時→会津高原10時～11時→湯の花温泉郷11:20～12:20→木賊温泉郷12:40～13:40→伊南川14:00～15:00→白河着17:00

問合せ先 /NPS風景写真塾NE 主宰 椎名亮介 ※ NE:東北の略称
Mail address: nps.ne.office@xpost.plala.or.jp ☎ 090-9038-9087
ホームページもご覧下さい。

想像・写心・写真

昨年11月16日の川隅先生

のセミナー会場で、突然、会報「東風季報」の掲載記事を頼まれた。

実は最近写真撮影にはご無沙汰している。が、時間があれば近くをウロウロしている。理由はここ二十年近く地域の自治活動に参加していることと、一台しかない車が「かみさん優先」で自由に使えないからでごく単純なこと。

さて、標題の「想像」「写心」「写真」であるが、この計6文字は私が撮影に行くとき常に念頭に置く。ただ、単独行動が多い。理由は団体で行くと時間的に制約があり、落ち着いて撮れず集中できないからで、決して団体行動を嫌っているわけではない。

目的を持って行く時と、出たとこ勝負のような時もある。想像と写心とは同じではないかと思うが私の考えは違う。撮影に行く前に地図またはwebで撮影場所周辺を確認しておく、目的地へ向かう道中に車を運転しながら、これから向かう場所をいろいろ「想像」する。これがまた楽しいのである。この想像から心の中で、あれこれまだ見ぬ風景を切り取ることで自分なり

想像・写心・写真

井上 恒男

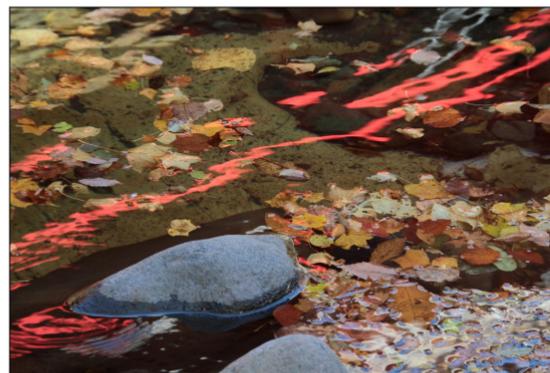
にとりあえず「写心」を完成させる。

もちろん現場に着いて満足もあればがっかりする事もある。でもそれなりに「想像と写心」を胸に「ウロチョロ」する。「写真にする」ためである。

被写体がどうであれ「ここは」と思われる場所を探し「想像」と違っても「パチリ」、次に周辺を「ウロチョロ」し、必ずどこかにあると信じ歩き回る。すると意外なところで想像とは違った光景に出会うことがしばしばある。

これがまた快感ではあるが、この立体的な被写体をどう平面的(写真)に仕上げるか思案のしどころだ。が、大体は直感で撮る。あれこれ考えてもまとまらないから決めて雑には考えてはいない。後で写真を見比べると直感で撮ったほうが個人的には良く撮れている、と感じているから他意はない。これが私の撮影スタイルなのだから。

意外な光景に出合った経験を紹介します。仙台近郊のある場所に目的もなくカメラを担ぎブラブラしていたら、橋の上からは気付かなかったが、別な目的で川原に降りた「と」ある場所に「目が留まった」それは水面に人工物の色が反射し、ゆったりした波と調和した素晴らしい光景を提供してくれた。



《水面のオーロラ》

想像・写心・写真

小松ひとみプロとドクターX

私の一番好きな写真家は「野呂希一さん」です。

ところが私は野呂希一さんには、お会いしたことがなく、写真集や対談集の中の『憧れの人』なのです。その撮影スタンスがとても真摯で、被写体に向かう姿勢に憧れます。色や言葉を写真に通して大切にしている写真家です。

◆今回のコラムの「小松ひとみさん」は野呂希一さんの次に好きな写真家です。でも、何回かお会いしているのでも現実的な面ではとても親近感のあるプロカメラマンです。「小松ひとみさん」の写真集や写真展、そして雑誌のグラビアや観光ポスターも拝見していましたが、大自然に対する感謝の気持ちが作品の中に現れているような気がします(あくまでも勝手な私感です)

◆昨年の12月9日、「富士フィルムフォトサロン仙台」で写真展開催中にギャラリートークがありました。今まで「色」をイメージし撮影した写真の中から、今回の巡回展に合わせた選んだ作品が、季節の移ろいを表現したレイアウトで、見応えのある写真展でした。ギャラリートークは僅か1時間の限られたものでしたが、「小松ひとみワールド」の撮影スタイルが、写真を見ながら説明の連続でした。

想像・写心・写真

小松ひとみプロとドクターX

◆そのお話の中でとても気になる言葉がありました。「しばらくシャッター押していないと(うずうず)としてくる」つまり、写真を撮りに行きたくてソワソワし禁断症状に近い気持ちになるらしい。それはプロとして仕事で頼まれた写真を撮るのとは違い、自分の好きな形で表現できる「ライフワーク」としての写真撮影だと言うことです。だから満足のいく写真が撮れるまで1週間も山に籠ることもしばしばとか。たぶんその時はカメラマンではなくカメラマンになっているのでは?!

◆ドラマで「ドクターX」というテレビ番組があり、好きで見えています。「私、失敗しないので」の決め台詞が周りの人を唖然とさせる。そんな完璧な外科医を米倉涼子が演じている、現実では半分有り得ない様なドラマです。でもドラマだから絶対失敗しないようにできているのです。彼女はフリーランス(バイト)の外科医のため、半分邪魔者扱いされます。でも腕が良いので難しい手術もこなしてしまい、業界で「ドクターX」と呼ばれています。

◆そんな「ドクターX」がいろいろ画策でオペから外されると、こんなセリフを言います。「私に切らせて、うーっ、切りたい!」と、叫びます。

この外科医「オペ(手術)」ができないと禁断症状に近い精神状況に陥るらしい。

想像・写心・写真

小松ひとみプロとドクターX

◆「小松ひとみさん」のギャラリートーク会場で「シャッターを切りたくてしようがなくなる」という話を聞いて、米倉涼子さんの「オペさせて、切らせて」と、小松ひとみさんの「シャッター切りたくない」が重なってしまいました。さすが「プロ」だなあと、感心しました。ドクターXも、小松ひとみさんも男以上の気力を持っているのだろ

う。

◆そういうえばドラマの中の男ども、威勢が良いが「張り子のトラ」で実は弱い。

「小松ひとみさん」はシャッターを控え、人前に立つのは苦手。と言っているが、実はどの男たちより強い精神力と繊細さを持ち合わせているよう

だ。(二〇一八年三月 丸山慎一)

編集後記

定期総会も済み、1面は今浦友喜プロのスライド&トークセミナーの記事を秋葉副会長に、また冬の撮影旅行報告記事等を掲載しました。

2面記事は東風協顧問の椎名亮介様よりご寄稿頂き、また井上恒男様には快くお引き受けいただきました。丸山幹事長は連載です

また、今年第2回目のセミナーに萩原史郎先生を予定し、現在対応を進めており、詳細は後日お知らせいたします。ご期待下さい。